2023年9月17日
「はじめてのキリスト教」説教要約

歳を重ねる喜び

（ルカ2・25～38）

一、歳を重ねるということ

人生はトータルで見て、初めて分かるものかと思います。もちろん「トータル」は、人によって異なります。病気や不慮の事故で短くなる場合もあれば、平均寿命よりも短くして終止符が打たれる場合もあります。こればかりは仕方がありません。ですが、自分で人生を終わらせてしまうとすれば、それは何と残念なことかと思います。

二、シメオンとアンナ

きょう開いたテキストにはシメオンとアンナが出てまいります。お二人とも高齢者でした。25節をご覧ください。**〈そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。〉**とあります。シメオンは、主の預言者であったと思われます。**〈聖霊が彼の上におられた〉**という記述、また26節に**〈そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはないと、聖霊によって告げられていた。〉**とあるからです。シメオンは、他のユダヤ人と同じように「イスラエルが慰められるのはいつか」と思っていました。すなわち、ローマの圧制下から解放され、国家として独立できるのはいつかと思っていました。一方で、**〈主のキリストを見ることはないと、聖霊によって告げられて〉**いました。そのシメオンが、幼子イエスを見た時に分かったのです。27節より29節です。**〈シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。〉**と。シメオンにとっては、自分に語られた預言のことばが、すなわち**〈主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない〉**が実現したのです。「生きてよかった！」と感動した瞬間であったでありましょう。

続いて、女預言者アンナについての記述も見てまいりましょう。36節、37節です。**〈また、アシェル族のペヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代の後、七年間夫とともに暮らしたが、やもめとなり、八十四歳になっていた。彼女は宮を離れず、断食と祈りをもって、夜も昼も神に仕えていた。〉**とあります。アンナもイスラエルが慰められるのを待ち望んでいました。そして幼子イエスを見て、聖霊によって知ったのでした。38節です。**〈ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。〉**とありますから。

三、歳を重ねる喜び

歳というのは、取ってみなければ分からないものです。十代の方にとっては、「二十歳」と聞いたら「年上のお兄さん、お姉さん」と見えることでありましょう。二十代の方にとっては、「三十歳」と聞いたら「年上だなぁ！」と思うことでありましょう。さらには、「四十歳」と聞いたら、ものすごく年上に感じられることでありましょう。これはずっと繰り返されます。ですが反対に、六十代の人間が、十代、二十代の少年少女、青年たちを見ますと「あんなに機敏には動けない」と思う方が大半かと思います。ましてや、早口でしゃべられなくなりますね。もちろん個人差はありますが。私は若い時分、高齢者になることが全く未知の領域でした。「どうしてあんなに動かれなくなるんだろうか」と思っていました。また「体は衰えても、精神は別ものだから、心は歳を取らない」と思っていました。ですが、体と精神は別ものというのは、ギリシア的な考え方ですね。聖書が語るのは、体と霊は一体であることです。ですがそうしますと、からだが加齢によって衰えて来ると、心も衰えてくるのでしょうか。ある面は当たっていると思います。が、完全にそうであるとは言えません。伝道者の書12章1節にこうあります。**〈あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。〉**と。私はこの聖句を見て、ある時期とても悩みました。「人が歳を取るというのは、信仰の有る無しに関係なく、『何の喜びもない』と言う年月になって行くのだ」と。五十代の半ばになり、体力も気力も衰えを実感するようになった頃に、伝道者の書のことばが応えました。「自分もそうなるのか。人間というのはそのようにできているのだ」と。いわゆる、あきらめの境地です。ですが、シメオンやアンナの箇所を見ますと、体は衰えても、神を信じているなら内側に燃えるものがあるのも事実です。使徒パウロも語りました。**〈たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。〉**（Ⅱコリ4・16b）と。ちなみに、パウロが語った**〈外なる人〉**とは、体のことではなく「生まれながらの人」「罪の性質を持った古き人」のことです。9割以上の方が誤解しています。**〈内なる人〉**とは、「キリストによって新しく生まれ変わった人」のことです。

主イエス・キリストを信じて救いを得、本来のあるべき姿を得てください。